

【給食協会賞】ぼくが伝えたいこと

桜井小学校 富田 昊真

給食には不思議な力がある。それは、ふだん家では食べられない野菜がたくさん食べられる事だ。ぼくの好きなメニューの、ビビンバやカレーライス、ラーメン、ソフトめんなど、全てのメニューに野菜が入っているけど、

「おいしいなあ、ずっと食べていたいな。おかわりしたい。」  
と、いうような気持ちになる。

でも何で給食だと野菜が食べられるんだろう。ぼくは考えた。一つ目は、周りの人がおいしそうに食べていること、二つ目は、時間内に食べないといけないので迷っている間がない。でも何よりおいしくないと思えないので、やっぱり味がおいしいのが一番だ。

僕は魚が大好き。魚の日はうれしいけどみんなは魚を残す。けれどもそれは、いっぱい残っているという事なので、たくさんおかわりが出来る。それは、ぼくからしたら、ラッキーな事だ。だけど、魚をおかわりしすぎると、お母さんから、

「今日の給食魚だったでしょ。何か魚のおいがする。」

と言われる。すこしそれはいやな気持ちになる。給食がなくなってしまうと、野菜をいっぱい食べるきかいがなくなってしまうし、野菜をおいしいと感じて食べられるようになるまでは、野菜をずっと食

べなくなってしまうって自分の体に大切な栄養がとれなくなるという事なので給食がなくなってしまうたら自分は好きな物しか食べなくなってしまう。だから自分は給食には、絶対なくなってしまうと思う。

最後に、味はもちろん、ぼくが大好きで、大切な給食。もしも給食がなくなると、お弁当になってしまったら、自分の好きな物がいっぱい入っていてうれしいけれど、健康面で考えると、野菜があまり入っていないくて給食とはちがいで、栄養が低い。だからぼくは弁当よりも給食が良い。ぼくの体に必要な物をあたえてくれる給食。もう一度言う。ぼくが大好きで大切な物だ。